

この磐座は氷上丹波の小字名が岩倉にある。その字が示す通り、明らかに磐座が石蔵(いわくら)になり石蔵(せきぞう)と言われ、石像と書かれた。尚、本来は神社であったが神仏習合により現在は寺院になっている。さて、当磐座は山の中腹に忽然と姿を現している。朝日を受けた真っ白な巨石を神と言わずに何と表現できようか。この御神体を拝むための拝殿の位置に現在は寺があるが、そこには重森三玲による四神相応の庭がある。ここは日本庭園の源流の一つの磐座と現代日本庭園の代表作が揃っている。テーマは道教によるが「日本庭園に色彩を！」を試みた創作庭園。



真っ白な巨石



巨石の下には祠があり原始神道の名残



古代より磐座信仰のある地に四神相応の庭が作られた。

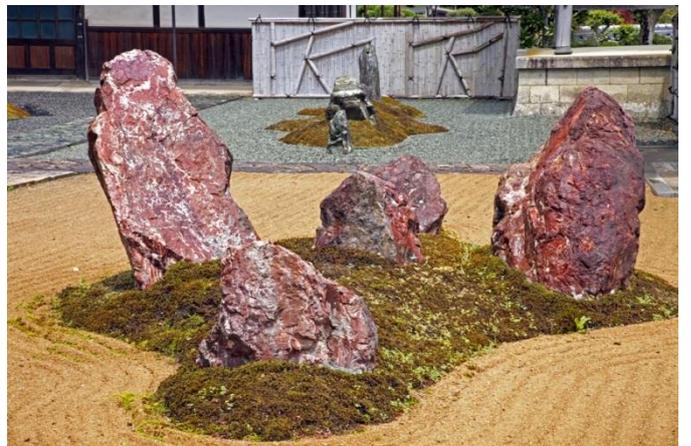
手前より右回りに青竜(東の流水)、朱雀(南のくぼ地)、白虎(西の大道)、玄武(北の丘陵)を象徴



**四神相応の庭:** 重森は古代日本の原始神道の地に、中国道教思想の四神相応思想を形に表した。単なる造形ではなく庭園に色彩を取り入れ、新しい形の日本庭園を提示した。色彩は石組、敷石、敷砂と徹底していて、大地に描いた三次元の絵画ともいえる。



青龍(奥は朱雀)



朱雀(奥は青龍)



白虎



玄武(奥は朱雀)



朱雀



青龍



磐座 (いわくら)



神仏習合